

令和7年度 第2回学校運営協議会議事録

日 時：令和7年10月4日（土）14:00～16:00

場 所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【学校運営協議会委員】

添田委員、白鳥委員、柴田委員、中村委員、檜本委員、内田委員

【校長・事務局】

高江洲校長、瀬戸教頭、藤山事務長、森（登）首席、森（佳）首席、林教務主任、谷口進路指導主事

議 事：①今年度の各取組みについて（中間報告）

②教科書選定結果について

③その他

④次回協議会日程について

<質疑応答及び提言>

宿泊野外行事における生徒の動きについて

委 員：今年度の各取組みについての話の中で、宿泊野外行事における行事委員の動きについてお聞きしたい。1日目の夕食の際、行事委員は学年全体に対して会場に5分前に集合するよう呼びかけていたが、集合場所付近が混雑したために、全員が時間通りに集合できなかった。次の日はルールを「各部屋を集合時間の5分前に出発する」と変えただけで、遅刻がなくなったという。また、3日目朝の宿舎出発時、行事委員が事前にバス会社に配車の仕方をかけあうとともに、生徒たちにも動線を徹底させることによって予定より早く出発できたという。行事委員は状況をどのように分析・判断し、このような行動ができたのか？

事務局：実際には、事前に想定していなかったことも当然起こりえる。行事委員は宿泊野外行事の企画から運営まですべて自分たちで行ってきたからこそ、目の前で起こっている事実がなぜ起こっているかなどを事前の計画等をもとに検証できたからではないかと考えている。

委 員：生徒全員が自主的に考え、行動できる場所は茨木高校の生徒の素晴らしいところだと思う。宿泊野外行事に向けて行事委員たちはどのような経験をしてきたのか？

事務局：宿泊野外委員は1年生から宿泊野外行事について細部にいたるまで議論を尽くしてきた。あわせて行事委員以外の生徒にも様々な行事を経験するなかで「ルールは守ろう」という意識が醸成されていた。これらの経験が生徒たちの主体的な判断や

行動につながっているのだろうと考えている。

委員：行事運営を生徒に委ねること自体が珍しいと思うが、茨木高校の宿泊野外行事は行事委員が中心になって1年生の時から継続して取り組んでいるところが大事なポイントなのだと思う。

委員：行事委員以外の生徒が納得して行動につなげることができたのはなぜか？運営側はマニュアル等を作成するので、その思いや意図などをきちんと理解している。しかしその思いや意図を伝えるのは一般的にはとても難しいと思う。

委員：行事委員の指示をどのように全体に伝えているか？

事務局：行事委員から各クラスの代表にまず伝え、クラスの代表からクラス全員に伝わるようにしている。

委員：説明の際、その根拠や理由もあわせて伝えているか。

事務局：伝えている。

委員：人は説明を受けたとき、結論だけを覚えようとしがちである。説明者が変われば、結論が変わることが十分に考えられる。何かを説明する際には、かならず理由をつけることが大事だと思っている。この経験は社会人になってからも必要だと思う。理由も合わせて説明することができるように、どのような取組みをされているのか？

事務局：一般的には集団の中でリーダーが固定されがちだと思う。入学以来、様々な行事などでリーダーが入れ替わっていくのは茨高の大きな特徴である。多くの生徒がリーダーの苦勞などを分かっているので理由などを含めてスッと入る。前回の協議会でもお話をさせていただいたが、定期考査前に生徒が自主的に勉強会をしている。生徒が自ら試験対策プリントを作成して、それを希望者に配付したり題材をもとにした寸劇を行ったりしていることを聞いている。このように分かりやすく伝えるための試行錯誤をするなかで、自然と人に説明するためのノウハウを身に付けていくのだと思う。このような経験を通して生徒は自信をつけ、次の取組みにつながっていくのだと思う。

委員：茨高生は何に対しても「自分たちで作る」という意識を持っていることから、この取組みが生徒から自然発生しているばかりでなく、ずっと継続している。その中で、人に教える経験が役立つことを生徒たちは実感しているのではないか。

高大連携事業について

委員：今年度、1年生の参加者数が例年と比べて多いと思う。逆に2年生は例年と比べると少ないと思う。なぜか？

事務局：高大連携事業は夏休みに実施することが多い。この時期はちょうど部活動も盛んになる時期である。2年生は部活動の中心になることが多く、どうしても部活動優先になりがちである。合わせて「1年生のときにすでに経験しているから」と考えて

いる生徒もいるかもしれない。いずれにせよ高大連携事業への参加と部活動の優先順位は生徒自身が決めてほしい。様々な高大連携事業については担任を通して2年生の生徒にも伝えられている。

委員：3年生の参加者数が少ないと思う。高大連携事業は生徒にとって「学校をどうやって選ぶか」「学問をどうやって選ぶか」という意味合いがあると思っている。4月頃に3年生向けに簡単なガイダンス要素を含んだ進路行事を企画してみてもいいか。

事務局：昨年度、3年生の研究室訪問の参加者数が6名であり、例年参加者数は一桁である。高大連携事業は夏休みの時期に実施するものが多い。ご提案いただいた4月頃の進路行事の実施については、その意味合いをもつ学問発見講座がすでにあり、校内実施であることも含めて3年生にとっては参加しやすいものと考えている。

委員：高大連携事業等には1年生が参加することに意義があると思う。実際に大学に行き、なぜ大学に行って学びを深める必要があるのかや、大学に行くことが何に役立つかについて生徒は実感を伴って理解できるようになると思う。それらの経験をもとに、2年次、3年次に自ら進路選択ができるようになるようにすることが望ましいと思う。茨木高校の高大連携事業は良い取り組みだと思う。

事務局：進路選択に向けて1年次は「広く」、2年次および3年次は「狭く」を生徒が意識できるような進路指導を本校では行っている。

委員：参加率に年度によって差はあるか？

事務局：年度によって差はある。一般に生徒が選択できる講座数を増やせば、それに伴って参加者数が増える傾向にある。様々な要素も鑑みつつ、生徒の選択枠を少しずつ増やしていきたいと思う。その中でも京都大学との連携は継続していきたい。そのため、本校卒業生である教員とのつながりを今後も大切にしていきたい。

Beyond_i in Singapore について

委員：**Beyond_i in Singapore** の選考基準は？

事務局：グループ面接を行い、生徒に参加動機など複数の質問をしている。面接を通して、生徒の行事への思いや本気度を聞き、そのうえで参加生徒を選考している。

留学生について

委員：留学生の様子は？

事務局：留学生が所属しているクラス、集団では肯定的に受け入れられている。学校生活を通して、これから互いに良い影響を与え合えるような関係になってほしい。

まとめ

委員：先生方は忙しいなか、一生懸命行事をやってくださっている。それは子どもたちを支えたいという気持ちからということが伝わってきた。校長先生も自ら子どもたちの中に入ってくださっている。リーダーを育成するためには、ただ見守るだけではなく、仕掛けが大切だと思う。それはリーダーを誰かに固定するのではなく、様々な場面で様々な生徒にリーダーを次々と経験させていくことなのだと思う。高校のときに成功体験も失敗体験も経験させておくことが大切。茨木高校の行事には意味がある。

委員：高等学校学習指導要領総則にも記載がある通り、教育の目的は平和で民主的な国家及び社会の形成者としての国民を育成することだと思う。10年後、20年後、30年後の社会をリードしていくことができる人物を育成することが必要ではないか。茨高の生徒は主体的に考え、判断し、行動することができている。その生徒たちを先生たちがしっかりサポートしてくれていると思う。

教科書選定結果について

委員：二次元コードが付されている教科書が増えてきている。今後の教科書選定ではリンク先の動画や写真等も選定対象になると考えている。

その他

- ・令和10年度以降の入学者選抜方式について
- ・次回（第3回）学校運営協議会は令和8年2月21日（土）14:00～16:00（予定）